

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット／1階ユニット)

事業所番号	2793300118		
法人名	株式会社フレンド		
事業所名	グループホームフレンド天下茶屋		
所在地	大阪市西成区天下茶屋北2丁目1-22		
自己評価作成日	令和5年9月19日	評価結果市町村受理日	令和5年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和5年9月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活保護の方の受け入れ・看取り介護の充実
----------------------

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

株式会社フレンドは大阪府下に5か所、東京に1か所、福岡県に1か所のグループホームを運営している。管理者が昨年10月から交代した時の印象は、コロナ禍で外出することもままならず事業所内だけで過ごしていたためか利用者、職員の表情も笑顔が少いと感じたとのこと。事業所内の改革として職員との関係構築のため定期的に職員が困っていることや悩んでいることがないか個人面談をしたり、利用者や職員の意見や要望ができるだけ実現できるよう法人と交渉し、経年劣化した壁紙や床、各居室のエアコンを新しい物に交換した。屋外に出なくても楽しめるようなイベントを沢山取り入れることで、利用者、職員の表情が明るくなったと管理者が1年を振り返る。バイタリティーのある管理者と職員が丸となって利用者が楽しく生活ができるよう支援している事業所である。
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に理念とグループホームの役割を伝え、徐々に実践している。年度ごとのスローガンを決め、取り組んでいる。	法人理念である「地域の中でその人らしく暮らす、地域に密着した尊厳ある暮らし、その人がその人らしく暮らす」とは別にフロア毎に職員皆で考えたスローガンを玄関と、フロアに掲示している。朝礼時に皆で唱和することはしていないが、掲示することで常に職員の目に触れ、共通した意識で実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域の方達との繋がりができていなかったが、コロナ禍が緩和され、徐々に地域との繋がりを増やしていこうと取り組んでいる。	開設して10年以上経過するが近隣住民の高齢化に加え、自治会も無く地域住民との連携が図りにくい環境にある。その中でも地域の商店街に買い物に行ったり、近くの店で食事をしている。コロナが5類に分類されたので大衆演劇の好きな利用者を連れて観劇をしたり、公園でのイベントに参加しようと検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状できていない。今後地域とのつながりの中で役割を持っていけるようにする。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回実施。参加者を増やせるように努めている。	偶数月の年6回運営推進会議を開催している。自治会は無く、民生委員に参加の働きかけを行っているが、なかなか参加してもらえていない。構成メンバーは地域包括支援センターと事業所職員、家族と少ない。運営推進会議の議事録は参加した家族に郵送している。	規定回数の会議は開催しているが、構成メンバーが少なく参加者からの意見が少ない。近隣のグループホームや介護に関する知見を有する人に参加を依頼しサービス向上に活かすことを期待する。全家族に運営状況を知ってもらえるよう議事録を郵送することを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に3、4回電話連絡や面談をおこなっている。	生活保護を受給している利用者の受け入れを多数行っている。市の生活保護担当者による事業所の訪問や、7名の利用者が大阪市の日常生活自立支援事業「あんしんサポート」を利用している。家族のいない利用者のマイナンバーカードの申請手続きや事業所で看取りを行う利用者のことで相談するなど区の担当者との協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年二回の研修を通じて理解を深め、二か月に一回の身体拘束に対する会議を行い、身体拘束につながらぬケアに努めている。	身体拘束等の適正化のための指針を整備し、運営推進会議の時に身体拘束について話し合っている。転倒を繰り返す利用者の転倒を予防するため話し合い、家族にも同意を得てセンサーマットを使用している。言葉による抑制をなくすため職員が穏やかな気持ちで介護ができるよう、管理者はシフト調整をしたりメンタル面でのサポートを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年二回の研修を通じて理解を深め、新入職員には初月に研修を行い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者とフレンド大阪事務所間で相談する機会があるが、職員が学べる機会をつくる必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をおこない、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情要望報告書・アンケートはがきの設置などにより常に意見の行き来が出来るようになっている。	奇数月に法人から家族あてに事業所に対する意見や要望を聞くためのアンケートを実施している。家族や身寄りのない利用者が多く、寄せられる意見は少ないが、意見や要望があった時は苦情要望報告書を作成し改善したり反映させている。利用者からの意見や要望は日常の会話から聞き、職員間で情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回フロア毎の会議、三か月に一回管理者による職員の個人面談、その他要望があれば都度面談し、意見を集め、改善努力をしている。	毎月フロア毎の会議を開催し利用者のケアについて、職員の意見・提案を聞く機会を設けている。フロア会議以外にも管理者が3ヶ月に1回個人面談をし、運営に関することや困っていることがないか意見を聞いている。玄関の壁紙の張替えや、各居室のエアコンを新しい物に変えて欲しいと要望があり交換した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤怠管理報告書・夜勤業務報告シートなどにより、勤務内容の把握に努め、残業の抑制、手当による評価、個々にあった仕事や役職の提示をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に二回の法人内研修の実施、社員教育支援制度を利用した法人外研修、消防署による無料の講習参加などに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修・リーダー研修など、他法人と交流する場を設けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談をご本人・ご家族・関係者と話し合い、ご意見・要望を最大限尊重し、その中で信頼関係をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談をご本人・ご家族・関係者と話し合い、ご意見・要望を最大限尊重し、その中で信頼関係をつくっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態を各支援者の方と相談し、今一番必要なサービスを提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いを尊重して生活ができている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とよく話し合い、活発な意見交換ができている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の生活歴をアセスメントし、友人との交流や行きたい場所に行くなど活動ができるように支援している。	入居前に利用していた施設で一緒だった人や、昔からの友人が訪問してくれる。近くの商店街に買い物に行くこともある。アセスメントの結果、読書の好きだった人のために本棚に文庫本を並べた。数名の利用者が手に取って読書をしている。今まで大切にしてきた人や場所、馴染みのことが継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性の把握に努め、互いに良い関係が築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	窓口を設け情報の提供、生活の相談などしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位のケアについて、職員が理解を深め、実践していく必要がある。	職員は利用者との何気ない会話の中や、表情を見ながら思いや意向の把握を行っている。テレビを観てウナギが食べたいと言う利用者のために食事のイベントでウナギ丼を提供した。買い物に行きたい、掃除や洗い物をしたいという利用者には本人のできることをしてもらいながら思いや意向が実現できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談や情報提供により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	詳しく記録をとり、情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設関係者のみ为中心になっているので、今後より幅広く意見を受け付ける必要がある。	長期目標期間を1年、短期目標期間を6ヶ月で設定し介護計画を作成している。モニタリングは6ヶ月毎に行っているが利用者の状態に変化があった時や、職員からケアについて提案があった時には再度アセスメントをして担当者会議を開催し見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録などに詳しく記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状不十分に感じている。地域資源を積極的に活用する必要がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	月に二回訪問診療を依頼している。その他緊急時の診察、24時間の電話対応で備えている。医療連携票にて内容を詳細に記録している。	入居時に本人や家族の納得・同意を得て、全利用者が協力医療機関の医師をかかりつけ医としている。内科は月2回、歯科往診・口腔ケアは週1回全員が受けている。精神科・皮膚科等には協力医に管理者が同行支援し、受診結果は家族に連絡している。週1回の訪問看護師とは健康管理・状態の共有を図り連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護を依頼している。24時間の電話対応で備え、又健康管理シートにてやりとりをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は、その病院の地域連携室と週に一度は電話連絡を取れるようにし、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取り介護に関する指針を書面で用意しており、看取りに入る前の段階で本人・家族・Drと相談し方向性を決めている。	入居時に「重度化及び看取り介護指針」を示し事業所の対応方針を説明して同意を得ている。重度化した場合は本人・家族・医師・看護師らと話し合い、方針の統一を図っている。今年、末期癌が見つかったが全ての治療を強く拒否した為、本人の思いに添って緩和ケアにて最後を看取った事例がある。看取り介護提供標準マニュアルがあり、スタッフに対応を指導している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍により、講習を受けに行く機会がなかったが、救急救命の講習を徐々に受けに行って頂くようにしている。尚且つ定期的に研修などでシミュレーションし、連絡・報告フローの確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回消防・避難訓練をしている。浸水地域マップやAED設置マップ、避難経路の確認を定期的におこなっている。	年2回の法定訓練を実施しており、6月の夜間想定訓練では5名の利用者が参加している。コロナ禍もあり地域との協力体制の構築には至っていないが、今後取り組んでいく姿勢が伺える。災害用備蓄品は事業所で用意しているが、数量・保管場所・消費期限等の見直しが求められる。事業継続計画(BCP)については現在作成中である。	運営推進会議等で地域住民・知見者への働きかけをし、地域との協力体制を築いていく事が望まれる。備蓄品に関しては食料・飲料水、物資の保管は最低3日から1週間分の備えが必要とされ、数量・消費期限の確認等定期的な管理チェックが求められる。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけ心掛けていますが、ちゃん付けの名前の呼び方になるときがある。	年間研修で虐待防止等の人権研修を行っている。不適切な対応を認めた場合は具体的に注意・指導し、常に利用者一人一人の誇りとプライバシーを損なわない事を意識して、職員同士もお互いが注意し合える関係性を築くよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員に個人差があり、全体として取り組んでいく必要がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員に個人差があり、全体として取り組んでいく必要がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に沿った形で散髪・染髪し、服も自由な物を選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを把握し、個人にあった形で提供できている。準備や片づけにもたくさんの方が関わり手伝ってくださっている。 月に一度、食イベントも開催しており普段メニューで出ない食事を提供している。	業者による調理済食品を各ユニットで湯煎・盛り付けをしている。利用者が慣れた手つきで後片付けをしている姿が見られた。1ヶ月に1度は利用者と一緒に天ぷらを揚げたり、生地を袋に入れて足で踏んでのうどん作り等のイベントを盛込んでいる。6月には近くのフードコートに利用者数名が外食を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適量を状況に即して摂取できている。未摂取続く際はDrに相談し栄養剤などで栄養を摂っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの計画をたてているが、一人ひとりに十分な口腔ケアの支援の時間をとれていないように感じる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録による情報の共有、サービス手順書を作成し最適な支援を目指している。	布パンツ利用者は5名いる。個別のサービス手順書をもとに本人のタイミングに合わせてトイレに行けるよう、排泄パターンを把握し、適時に声掛け・誘導して支援している。夜間は2時間毎の見守りで確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のホット牛乳の提供、ラジオ体操、食物繊維の豊富な寒天の提供、腹部のホットパックなどで予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが、希望により柔軟に対応している。また温泉の元など入浴を楽しめるような工夫をしている。	週2回午前中を基本としているが、体調を見て入浴し、拒む場合には時間帯の変更・声掛けや誘導に工夫をしながら柔軟に対応している。入浴剤等を使っての楽しみも考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転せぬよう、日中は離床し活動できる機会を多くつくり、夜はパジャマ更衣し間接照明をつけ、トイレ誘導をおこない、適度な室温を保ち安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	不十分な部分があり、今後薬局担当者と相談しながら薬についての研修おこなう予定がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買い物の他、生け花やカラオケ、レクリエーションなど希望をききながら自由な趣味を楽しんでいただけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状できていないが、今後一人一人の希望に沿って、外出支援をしていく。	コロナ禍でも屋上に出て日光浴・外気浴をし、気分転換していた。利用者5名が6月には外食に出かけており、今後も個々の希望に添いながら近くの公園での花見や買物、大衆演劇鑑賞等の再開を検討している。	利用者によっては希望はあっても事故、単独行動等のリスクを恐れ、近くへの散歩や外に出る事ができていない。リスクのみを考えるのではなく、外出したい気持ちをどう実現するか、どのような工夫をしたらいいかを探っていく事が望む。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在利用者の方にお金の管理は任せていないが、預り金出納管理規約を説明し、希望があればいつでも自由に買い物ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ADLの低下が見られた場合、体調不良の場合、必要物品がある場合、事業所に届いた手紙を送付する場合など、電話や手紙にてやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現状、人手不足にてできていないが、徐々にしていけるように取り組む。	収納スペースは少ないが、整理整頓ができています。経年による床や壁などの劣化は管理者の本社への強いアピールによりそれぞれ張替え修繕されている。フロア入口には本棚があり、ミステリー物や様々な本がびっしりと並べられて、利用者が読書を楽しんでいる。フロアには部屋全体を見守る為、死角ミラーが設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、イス、ソファー、テレビの配置に気を遣い、思い思い憩いの空間になるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの家具やラジオ・音楽機器、水槽など快適に過ごせるよう工夫している。	ベッド・エアコン・扇風機・クリアケース・カーテンは備え付けとなっており、仏壇・ソファ等好みの物を持ち込んでいます。筆筒には地震に備えて突っ張り棒を設置している。好きな歌手のポスターを壁に貼り、その人らしい居心地の良い部屋作りをしている利用者がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、自分の個室に大きく案内を貼り出し、わかりやすくしている。手すりを多く設け自立歩行の手助けにしている。		